

雲仙岳の火山活動解説資料（平成 21 年 2 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報(噴火警戒レベル 1、平常)を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

2 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 2）

噴煙は白色、極めて少量で、高さの最高は100mでした。

・地震や微動の発生状況（図 2、図 3）

火山性地震の発生は 2 回（1 月：2 回）と少ない状態で経過し、火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 4）

GPS 連続観測では、火山活動に起因するとみられる変化は認められませんでした。

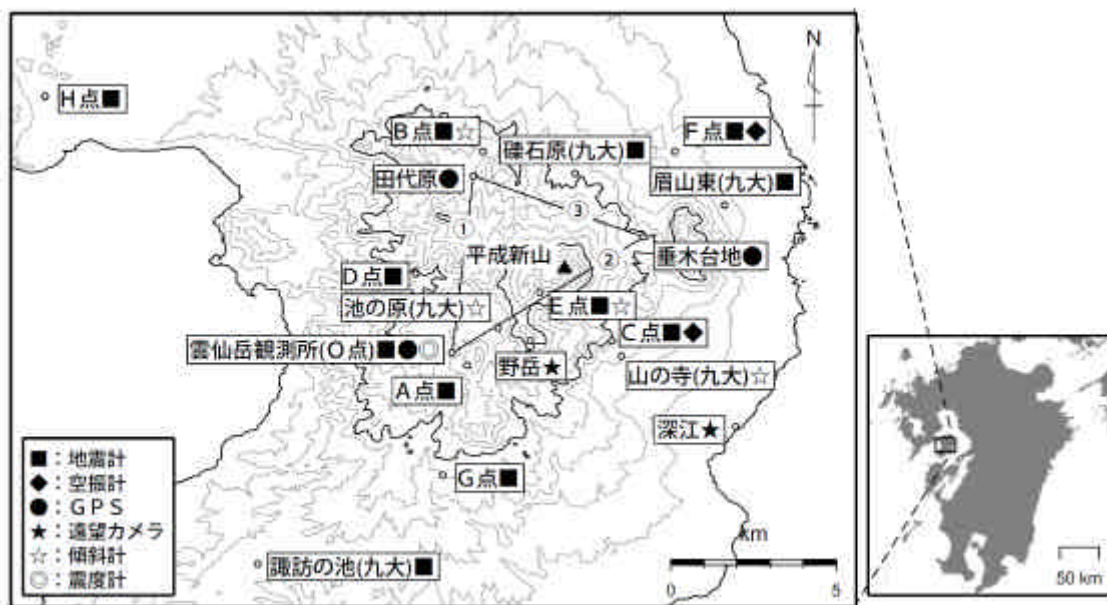


図 1 雲仙岳 観測点配置図

この資料の作成に当たっては、気象庁のデータその他、九州大学のデータを使用して作成しています。地図の作成にあたっては、国土地理院長承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ(標高)』及び『数値地図 10mメッシュ(火山標高)』を使用しています(承認番号:平 20 業使、第 385 号)。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区気象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成 21 年 3 月分)は平成 21 年 4 月 7 日に発表予定です。

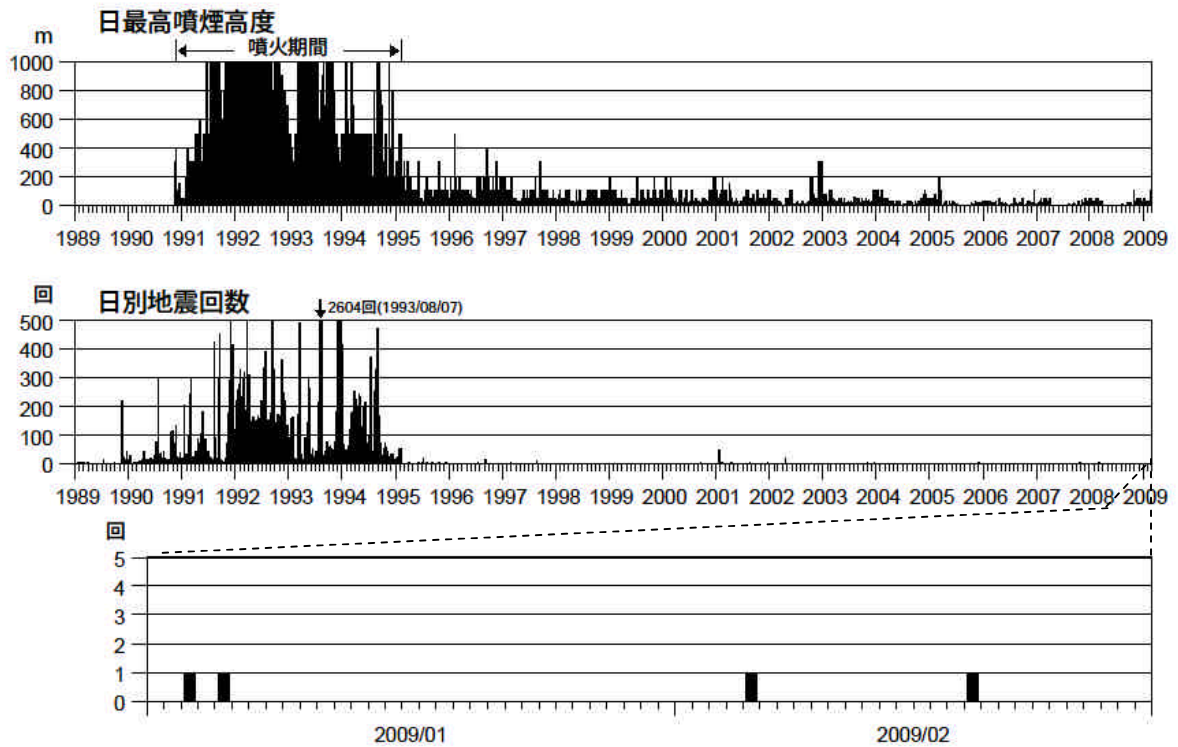
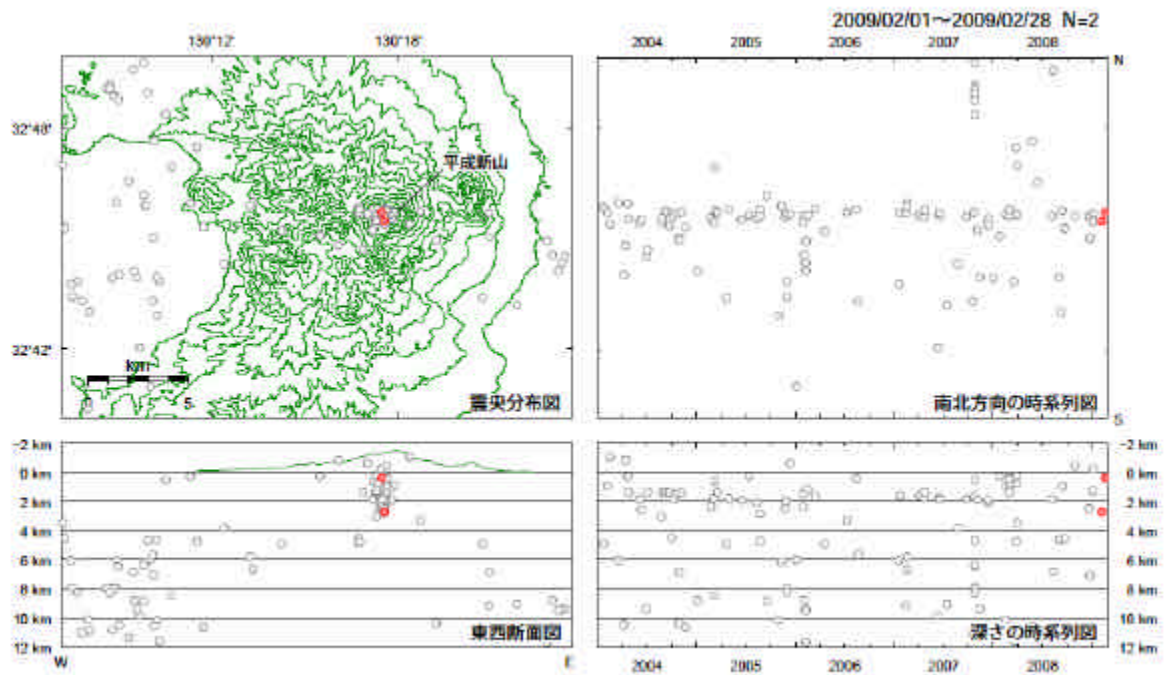


図2 雲仙岳 火山活動経過図（1989年1月～2009年2月）



この資料の作成に当たっては、気象庁及び九州大学のデータを使用しています。
この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（添付番号：平20農使、第385号）。

図3 雲仙岳 震源分布図（2004年1月～2009年2月）
震源は、これまでも発生している平成新山直下に分布しました。

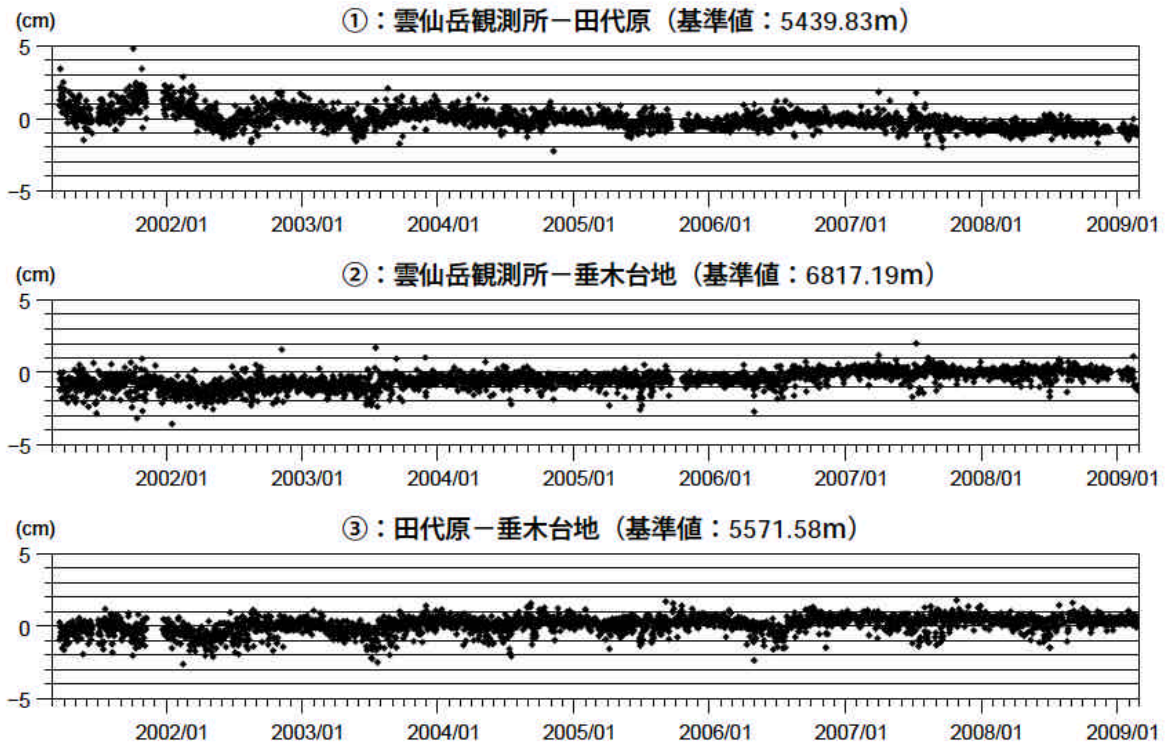


図4 雲仙岳 GPS連続観測による基線長変化(2001年3月20日~2009年2月28日)
火山活動に起因するとみられる変化は認められませんでした。
この基線は図1の ~ に対応しています。